



いのち・性・AIDSを見つめる

Living with AIDS

206 号のニュースレター

- | | |
|---------|----------------------------|
| 1 面～3 面 | 東京都エイズ・ボランティア講習会聴講報告 堀尾吉晴 |
| 4 面～6 面 | やっぱり授業でやらずにっちゃん！ 堀尾吉晴 |
| 7 面～8 面 | 出前講座報告 中野久恵／ANY会員の皆さまへお知らせ |

東京都 エイズ・ボランティア講習会 聴講報告
テーマ：セックスワークと性感染症
～性の多様性という観点から見てくるもの～
事務局長 堀尾 吉晴

講師：宮田 りりい さん（SWASHに所属）

【SWASHとは、SexWork And SexualHealthで、セックスワーカーの健康と安全を目指して、関西を中心に活動している団体です】

3月7日、お茶の水のソラシティで行われた講習会はとても面白く、刺激的なものでした。話としては、宮田さんの自己紹介から始まり、基礎知識としてのLGBTなどの言葉の定義とセックスワークの形態、セックスワークをどう見るのか、性感染症からどう護るのか、性の多様性の視点から、となるのですが。

宮田さんの自己紹介：中学のころから自分の男の性徴に嫌悪感を持つようになり、そのことに悩み、どう生きていけばいいのかわからず、ひきこもるようになる。その後、同年代のニューハーフに会い、そのように生きていきたいと思う。20代前半にニューハーフの店でセックスワーカーとして働く。女装を学んだり、ホルモン療法を知ったり、楽しかったが、年とともに若い子が入り、先輩が辞めていく中で将来に不安を持つ。ある講演会で、「男らしさの抑圧」＝男性学＝に触れ、大学進学、現在も大学院在学中。今は『様々な生きづらさ』は、抱えている個人ではなく、それを生み出している社会規範・制度の問題」という視点が大切と思っている。

セックスワークの形態：次のように分けていました。

- ① ソープランド：個室付き特殊浴場（保健所の管轄で許可制）
- ② 旧遊郭：料亭・旅館で営業（保健所の管轄で許可制）
- ③ 店舗型ヘルス：性風俗店（警察の管轄で許可制）
- ④ 無店舗型ヘルス：性風俗店（派遣）（警察の管轄で届出制）
- ⑤ その他：出会い系（喫茶・サイト）、AV出演・・・

店舗型は法的規制で増やせない状況の中で、SNSの普及で④、⑤が増加。ワーカーにとっては客との個別対応になり、危険なときに救済を求められないなど、物理的な危険が増加している。また、ワーカーの所在が明確でなく、パンフやコンドームの配布などのアウトリーチが出来にくい。店舗だと、先輩などとの交流もあり、客にいやな思いをさせずにコンドームを付けてもらう技術、話術などの伝承ができたり、定期的にSTI検査を勧めたりが行える。（検査と結果の報告の義務付けは人権の視点から留意が必要。）

セックスワークの捉え方：三つの見方がある

- ①救済型：セックスワーカーを被害者とみなし、救済対象と考える。
- ②犯罪化型：犯罪として、規制強化をする。買春を処罰（北欧モデル）。
- ③非犯罪化型：仕事として認め、ワーカーの労働条件改善、人権尊重を目指す。

微妙なところですが、非犯罪化は合法化とは異なる。合法化は法を整備することになり、線引きからはずれると①、②と共にアングラ化してしまう危険がある。アングラ化するとより介入が難しくなる。

性の多様性について：LGBTの特にTの扱いに対する批判がなされました。

Tはトランスジェンダーを指すが、イコール「性同一性障害」と思われていて、抱える問題は、「心身の性の不一致」という「個人に内在する特異性として、個人の側に原因がある」だけになっている。トランスジェンダーとは、出生時に割り当てられた性別を越境する人々であって、GID＝性同一性障害ではない。トランスジェンダーは病理的な概念ではなく、通常の人間の性的指向と性自認の一つの形である。その人たちがスティグマ＝望ましくないという他からのまなざし＝を感じるような社会規範や制度を問題視すべき。

感想です

非常に多くの内容を含んだ講演でした。（一緒に聴いた富樫さん曰く「お腹一杯」）最初のほうでトランスジェンダーと性同一障害の話が出たときに、LD（学習障害）やADHD（注意欠陥・多動性障害）が出てきた時のことを思い出しました。

LD・ADHD共に「先天的な脳の機能障害」なのですが、それが出てくる前は「親のしつけが悪い」と扱われることがほとんどでした。「先天的な障害」とすることで、親の「自分が悪い」というストレスが軽減され、治療・通学に積極的になるようになった、と支援学校の指導主事から聞いたことがあります。ただその時に、「親はそうだろうが、『先天性の病気』と認定された子ども本人にとってはどうなのかなあ？」と思ったのです。

G I Dも同様に、「自分は病気なのだからしょうがない。病気と付き合って生きればいいじゃない。」とポジティブに向かうきっかけになり、それで救われる人もいるでしょうが、宮田さんのように、「それは自分の意志であって、病気ではない。性指向・性自認の問題で、自分はそれを選択したのだ。」という人にとっては「迷惑だ」ということになるのでしょうか。LDやADHDでは、他者への影響（授業妨害・事故など）が多少ありますが、性指向・性自認は個人的な問題です。「生きづらい」と感じさせるような社会規範＝『らしさ』＝を求める社会こそ人権侵害なのだ」という主張は当然だろうと思います。

私は長く高校で「生物」を教えていましたが、「生物」で生徒に伝えたいことは「相対的なものの見方」でした。生き物それぞれに生き方、都合がある。それを擬人化して人間から理解しようとするのは間違いで、その生き物の立場から理解しようということ。人間でも同様に、それぞれの状態、状況で感覚、発想は異なり、絶対ということはない。「真実」は存在せず、「事実」がある。それをどう扱うかは、時代、社会によって異なる。人権を尊重するということは、他者をまず肯定するところから始まるということです。他人に「生きづらさ」を感じさせるような、自己に無批判な感覚や発言はあちこちにあります。特に電話相談では気をつけないと。

今後のこと

宮田さんの話の中で、「セックスワーカーの働く場所に、S T I の情報がまったく入ってこない」ということがありました。最近の梅毒感染の急増はご承知でしょうが、20代前半の女性に多いのが特徴的で、「外国人観光客からセックスワーカーの女性へ、がスタートではないか」とも考えられています。セックスワーカーの方はS T I に関して最も危険な職場にいるのですから、そこに情報が入ってこないのは問題です。M S Mの方へは本会顧問の市川先生のように、風俗店やハッテン場に介入し、情宣したり、コンドームを置いたりする活動が全国展開されていますが、M S Wの方が利用するところでは、店舗にコンドームがおいてある程度で、積極的なアウトリーチがされ

ていません。まして、非店舗型には……。行政も入りづらい部分があり、どうするか考えないと。

東京都の情報

会の最初に 2016 年の速報値が知らされました。() 内は 2015 年。

H I V 増加 4 6 4 件 (+ 2 9) 感染 367 (364) 発症 97 (71)

梅毒の急増 1 6 7 3 件 (調査開始後最高) ♂1218 ♀455

20 代前半では女性が男性を上回っている。

横浜では H I V は、微減でしたが、東京都では 7 % 増でした。全国の集計がどうなるか心配です。特にいきなり A I D S が増加要因であることは、まだまだ潜在的な感染者が多いことにつながります。より検査を受ける方向に進めないとは。

やっぱり授業でやらずにちゃ！

授業参観報告 堀尾吉晴



筑波大付属高校「保健」の授業を見学してきました。

保健を教えている貴志先生、NGO の SHARE、アーユスとで、シェアがタイで行っているエイズ教育手法を用いて日本でもエイズ教育を広げていきたいと、2000 年から始まりました。現在は SHARE のエイズピアエデュケーションチームの HAATAS (HIV/AIDS Action Team At SHARE) も加わり、HIV と人権を考える授業を行っています。HAATAS の紹介でその授業を見る機会がありました。

筑波大学は旧東京教育大学を母体に作られ、私はその出身です。附属は旧東教大と同じ駅、地下鉄茗荷谷駅で降ります。院を修了後、神奈川の教員になって以後ずっと神奈川に住み続けていましたから、40 年数年ぶりに徘徊しました。大学を占拠していたり、機動隊に追われて雪の中を逃げたり、お茶女に乱入したり……。といった思い出はさて置いて、見学報告です。

授業の様子

貴志先生の担当している保健の授業（1 年 2 年各 1 クラス）の 4 時間分を、出前授業のように実施するという形です。

4 時間のカリキュラムは、以下の内容です。

- 1 時間目：エイズの基礎知識の確認、ワークショップ（世界がもし 100 人の村だったら HIV 編、水の交換）など。
- 2 時間目：HIV 感染の可能性を考える カードを使うなど
- 3 時間目：ふれいす東京発行「Living Together」の中にある手記を読み、グループで話し合う。カミングアウトする立場、される立場の両方の視点で討論し、発表する。
- 4 時間目：高校生による高校生のための HIV 予防啓発の企画を考え発表する。

私は 3、4 時間目を見学させてもらいました。SHARE、アーユス、HAATAS のメンバー 5～6 人が中心となって展開をしていきます。グループでの作業では、スマホで色々検索するのもよし、同じくプレゼンテーションに使ってもよし。生徒さんたちは自由に論議し、進めて行きます。

教育から学習へ

この時間のテーマを説明し、手記の朗読など動機付けをして、問題提起をして。ピアエデュケーション、グループディスカッション、アクティブラーニング・・・、色々な方法が入っています。HIV、AIDS についての知識、予防、カミングアウトのしづらさ（人権）、積極的に関わろうとする姿勢の涵養と、かなり欲張った中身をうまく入れ込んでいる授業です。3、4 時間目とも、最後に生徒が発表するのですが、それぞれのグループがいろいろな視点でまとめていて、新鮮な感覚を呼び起こされるものもありました。

「筑波の生徒だから出来る」とは思いません。「何のために学習するのかを理解」出来、「やっていることがわかる」と生徒はくらい付いてきます。私も長く高校の教員をやっていましたが、学校は「教育の場ではなく、学習の場である」と思います。「対象に興味を持たせる、アプローチの方法を提示する、わかる喜びを与える」と、生徒は自発的に学習し、自然にお互いに教えあったりするようになります。そういった導入、展開がされています。

羨ましかったのは、生徒のほとんどがスマホを持っていることでした。かつての「調べ学習」だと、「図書館で参考資料を用意して」になるので、材料の用意が大変で時間もかかりました。「携帯の辞書機能を使っていよいよ」がせいぜいでしたね。今は、ネットで検索すると多量の情報を瞬時に見ることが出来ています。それを引っ張り出して発表した内容におかしなことがあれば「ネット情報は信頼できないものも多いからね」と、ネット社会への警鐘もならせます。いいなあ！ 「やっぱり、授業でやらずにちゃ」です。

保健だけでなく

ANYに依頼される講演では、多くのことが要請されます。HIVだけでも、「予防・啓発」だけでなく「人権」（性の問題も含んで）の視点が必要です。さらに、「STI全般」、「中絶」、「DV」なども含めてという状況です。それを1学年全員対象に50分ほど。とても深くは突っ込みません。

授業で展開できる場は多くあります。生物ならば、「免疫」、「分子生物学」、「ホルモン」、「動物の行動」などで、保健ならば、「生殖」、「感染症」、「出産」で、家庭科では「出産」、「育児」で。人権に焦点を当てるなら、「障がい者の権利」や「世界の流行状況」を現代社会や政治経済で、「感染者の置かれた状況とその心情」なら国語でも可能ですよね。授業で触れることは、生徒にとって講演で聞くよりもはるかに身近に感じ、知識の継続性もてます。もっと授業で触れる機会を多くしたいですね。もう一度。「やっぱり、授業でやらなくちゃ」！！

ANYの「出前講座部」では、HAATASとの協働が出来ないかを検討しています。

「ピア」を取り入れること、「ワークショップ」、「アクティブラーニング」的な手法を取り入れられないか、などHAATASの持っている手法と人材とのコラボが出来るといいのですが。

遠かったけど、楽しく、収穫、発見のある時間を過ごせました。

それぞれの団体の紹介です

特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会（SHARE）：健康で平和な世界を全てのひととのわかしあう（シェア）ために、草の根の立場から行動を起こした医師・看護師・学生等が中心になり、1983年に結成された国際保健NGO。すべての人が心身ともに健康に暮らせる社会を目指し、“いのちを守る人を育てる”保健医療支援活動を、カンボジア、東ティモール、日本で進めている。

特定非営利活動法人アース仏教国際協力ネットワーク：宗派を超えて仏教僧侶が集まり、仏教の精神に基づいて、1993年に設立された国際協力NGO。世界の様々な現実を目を開き、貧困や不公正、環境破壊など、平和と人権に関わる問題に足元から取り組んでいる。活動を進めるうえで大切にしていることは、社会の中で特に困難を強いられている人たちに寄り添うこと。その困難の原因を世界の構造的問題の有様に見だし、解決への道の一つとしてNGOの役割を重要視している。

HAATAS（ハタス）：若者により運営されているエイズボランティアチーム。様々な分野出身の学生や社会人がシェア東京事務所に集まり、主にエイズについて勉強している。若者の集まるイベントにおいて、エイズを身近なものとして考えられるようエイズ教育・予防啓発活動にも力を入れている。

（堀尾）

楽しく学ぶ エイズ教育者のためのワークショップマニュアル

シェアタイでは、タイ国内で開発された様々なエイズ教育の手法を用いて、タイ東北部のエイズの予防と差別軽減のための啓発活動を実施してきましたワークショップを実施できるようにと、今回マニュアルにまとめることになりました。教育現場で役に立つ情報がぎっしりと詰まっています。価格(税込)：1,296 円
シェア＝国際保健協力市民の会では、国際協力／国際保健に関する教材や書籍を販売しております。詳細はWEBサイト (<http://share.or.jp/shop/>) からお申込下さい。



出前講座報告

中野久恵



卒業を控えた3年生への出前講座を行いました。2月21日は樽町中学校(300人)、2月23日は本郷中学校(170人)でした。

今回は、樽町中学校での出前講座について報告します。学校と事前の打ち合わせを行い講座の内容を、①性ってなんだろう？②性感染症、HIV・エイズ③関係性(デートDV)の3項目で行いました。体育館での講座終了後、各教室に戻って次の授業は、養護教諭のテレビ放送による「性の指導」がありました。出前講座と「性の指導」をセットで構成している取り組みは意欲的でした。8クラス分の感想文は10頁にもなり、読み応えのある内容です。からだを大切にする、性って大切だとわかった、性行動は急がなくてよい、つきあうってどういうことか認識が変わった、などしっかりと受け止めてくれたことが読み取れます。その一部を紹介します。

【生徒の感想文】

- ・ 性と聞くとなんとなく恥ずかしい気持ちになっていたけれど、大切なことなんだと思いました。また付き合うときには相手から「支配」を受ける関係になっていないか「独占」になっていないか自分で早めに気が付けたらいいなと思いました。
- ・ 保健の授業で性感染症について勉強していたが、付き合うってどういうこと？は考えたことがなかったので、考えることができてよかったと思いました。付き合うということは人によって考

え方が違うと知り、考えがすれ違うと危ないということも知りました。事例はわかりやすく、事例3はすごく平和なカップルだと思いました。

- ・ 相手のことを考えて行動することは、異性に限らず誰に対しても大切なことだと思いました。
- ・ 今の私たちにとってとても大事な知識だと思う。感染症などはかかってしまったら一生治らないものもあるので、気を付けなければならないと思いました。体の性と心の性が一致しない人の差別や偏見もしたくないし、公共の場では男女兼用トイレが増えてくれたらなあと感じました。
- ・ 嫉妬ややきもちがあまり良くないことを初めて知った。DV は暴力だけだと思っていたからロールプレイを見てああいうものも DV というんだなと初めて思った。
- ・ 普段あまり話すことのない話題だったので最初は少し戸惑いましたが皆が皆同じでないことがわかりました。必ずしも男子が女子を好きになったり、女子が男子を好きになるわけじゃないということや、性感染症がどれほど危険なのかなど周りには聞けないような貴重なお話をしていただいた中で性について考え直すよい機会になりました。
- ・ 感染症って自分とは無関係だと思っていたけれど、今日の講演で身近なものであり、自分も感染する危険性があることがわかりました。また、相手と付き合うときは、相手の気持ちも大切にしつつ自分の思っていることも素直に言えるようにしたいです。
- ・ 男女の関係が大切だとわかりました。
- ・ 性についての考えが変わった。
- ・ 性について今まで深く考えたことがありませんでした。しかし、中野さんの講演を聞き深く考えなければならない大切なことだと気づくことができました。私が軽く考えていた性行為も色々リスクがあり、ちゃんとした知識を持つべきでした。付き合うということについても自然と自分の言うとおりにさせていたこともあったので、これからは相手を尊重し、話す言葉を選ぶと思いました。

お知らせ

☆ 電話相談件数：2月61件

☆ 定期総会のお知らせ 5月20日（土）13時30分～

* 今から予定に入れておいてください。



ANYニュースレター Living with AIDS

編集発行：特定非営利活動法人 AIDS ネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F

Tel：045-201-8808 Fax045-201-8809

ホームページ：<http://www.netpro.ne.jp/any/> e-mail：any@netpro.ne.jp